

# 徳島病院だより

独立行政法人国立病院機構 徳島病院

四国神経筋センター

第60号

【「きみのたまごはどれかな？」稲井孝志】  
第9回障がい者アーティストの卵発掘展出展作品



**基本理念** 私たちは、病気を持つ人々の立場に立った安全かつ良質な医療を提供します

- 徳島病院の病床機能再編
- 第77回国立病院総合医学会
- CT装置更新のお知らせ
- 令和5年度 筋ジストロフィー研修会
- 療養介護病棟の新キャラクター
- 第9回『障がい者アーティストの卵発掘展』  
第29回『障がい者芸術祭エナジー2023』
- ソーシャルワーク実習(徳島文理大学)
- 気管切開・人工呼吸器の人を支援しています  
～富士山のパズルに挑戦中～
- 徳島水族館
- Zombi Halloween parade2023

徳島病院の診療機能

- **一般医療** 地域医療に貢献します
  - ◎内科 ◎外科
  - ◎脳神経内科 ◎整形外科
  - ◎消化器内科 ◎リハビリテーション科
  - ◎放射線科
- **四国神経・筋センター**  
神経・筋疾患における四国の基幹医療施設です
  - ◎神経・筋疾患 ◎筋ジストロフィー
  - ◎パーキンソン病・神経変性疾患
- **総合リハビリテーションセンター**  
多種の疾患に対応して参ります
  - ◎ロボットリハビリテーション
- **臨床研究部**  
四国で唯一の神経・筋領域の研究部です

# 当院の病床機能再編に際して

経営企画室長 阿佐 慎治

「令和5年11月1日 医療法病床数236床となりました」

徳島病院が在る徳島県東部医療圏においては、必要な慢性期病床数を上回っており、人口減少や在宅医療の制度・患者さんの在宅療養傾向を踏まえ、徳島病院は近年の入院患者数推移・今後の予測推移より236床をもって地域の医療ニーズに応えられるものと判断しました。あわせて老朽化した医療機器(MRI、CT)・各設備の更新を行い医療機能・環境の向上に繋がることとしました。

病床数を236床とする病床機能再編は徳島県東部地域医療構想に沿ったものであり、当院は令和3年度に病床機能再編計画を立て、4年度に病床数を300床から270床に減床、さらに5年度に236床まで減床し4階病棟を閉棟するものでした。

令和4年度に「徳島病院病床機能再編計画ワーキンググループ」を立ち上げ、5年度の最終回までには合計8回開催、大小会議に小ミーティングを含めると20回以上の開催となり、様々な意見に検討を重ねてきました。令和4年度は、減床させる病室・ベッドの決定、ベッド等備品の撤去を行いました。各病棟では減床させるベッドの決定や減床後の運用に苦慮していました。

令和5年度は、5個病棟の内4階病棟を閉棟することに伴う4階病棟機能の移転先、4階病棟に入院している患者さんおよび他の病棟の患者さんの転棟先を決めなければなりません。あわせて療養介護病棟への患者転棟計画を進めながらとなりました。今回、1個病棟の患者さんを複数の病棟に転棟する形でしたので、どの患者さんをどの病棟に移すかなど各病棟ではかなり苦悩されたところです。

併せて、令和5年3月に国立病院機構にて公表された「ポストNICU病床の移転」(こちらについては別の折りに寄稿したいと思います)が加わり、当初計画より大きく内容等が変わることとなりました。

4階病棟閉棟にあたり患者移動日が10月10日と決定されてからは、病床機能再編計画ワーキンググループをはじめ看護部で患者さんを安全に移動させることを第一に考え、移送方法・手順、応援体制、当日の病棟の流れ等について検討を重ねました。各病棟では毎日のように転室が行われ、減床によるベッド等備品の撤去・移動を行いスタッフは本当に大変な状況でした。その間、入院・退院調整を行いつつ患者数を保つ難しさも加え、9月からは療養介護病棟へ転棟予定であった患者さんの事前転棟も始まり、病棟スタッフにおける苦労は大変なところでした。書き切れないほどの内容ですが、患者さんの移動をみてもどの病棟に移るのか、患者さん本人・ご家族への連絡は、患者さんの移動形態はどうするのか等々、考えることは山のようにあり、日数が無い中いくつものことを決定していく状況でした。実際、10日の移動日の5日前まで内容検討や変更が続いていた状態でした。そのような中、新規入院等の受入れ調整をはじめ、普段患者紹介を頂いている医療機関等にはご不便をかけていたと思います。

10月10日、いよいよ4階病棟入院患者の大移動となりました。4階病棟以外の病棟においても転棟による送り出しや受け入れがあり、全ての病棟が病床再編となる大移動となりました。この日は外来診療を止めての病院全体・職員一丸の対応となりました。

朝8時40分全員集合しオリエンテーション、人工呼吸器装着の患者も多くおられ万全の体制での移動となりました。主治医に看護師、その他職員が病室に付き患者移動のタイムスケジュールの始まり時間を待ちました。病棟内からエレベータそして受入れ病棟へと安全かつ慎重であり迅速に移動し、移られた病室では主治医、看護師が患者さんの状態を確認しました。また、床頭台などの備品と患者さんの荷物の移動も一緒に行いました。転棟された患者さんは4階病棟とその他病棟を合わせて34人、職員においては総勢延べ400人以上が当日の



事前オリエンテーション



病室出発、転棟開始です



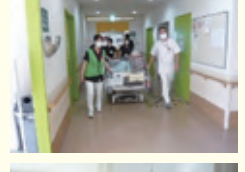
病棟内を慎重に移動しています



エレベータの段差にも注意



転棟先の病棟・病室に着きました



転棟後も対応に大忙しです



荷物も移動待機中



一旦廊下に並べてから病室内へ



荷物の入れ替え中

患者移動等に携わりました。その甲斐あって無事に患者さんの転棟が終了でき良かったと思います。

平成25年9月に開棟した4階病棟は丁度10年をもってその機能をほかの病棟に引き継ぐ形となりました。今後4階は別の有効利用を検討しつつ、病床機能再編後の徳島病院全体の病床・病棟機能がより良く進むことを考えるばかりです。そして、転棟された患者の皆さんにおかれましては、新たな病棟での治療、療養介護により、安全かつ良質な医療を受けて頂きたいと思います。

病棟では病棟機能の変更に加え、患者数の増大に患者層の変更等の様々なことが起きておりますが、これまでの日々の積み重ねが今の患者さんと病棟・病院を支えている原動力であると思います。本当に大変だったと思いますが感謝の想いでいっぱいです。

病床機能再編計画の最大の山場であった病棟閉棟にかかる患者移動は終わりましたが、再編計画の流れは現在も進行中ですので、病棟の運営にこれからも月々日々職員が力を合わせて進んで行けるようにしたいと思うところです。

## 第77回国立病院総合医学会

### 「未来へ向かって～日本の医療を支える国立病院機構～」

看護師 堂脇 真子

第77回国立病院総合医学会「未来へ向かって～日本の医療を支える国立病院機構～」が広島県で開催され、「A病院の神経難病病棟における固定チームナーシングの受持ち看護師としての認識」というテーマ



で発表を行いました。現在当院では固定チームナーシングを導入しており、看護師の受持ち患者への関わりや・固定チームナーシングを意識して看護できているかについてアンケート調査を実施しました。今回の研究では、経験年数別にみたチームメンバーとの関わりに有意差が見られました。研究で明らかとなったことを共有し、さらに質の高い看護が提供できるようにしていきたいと思います。また、他病院の様々な取り組みを知りとても良い学びとなりました。日々の看護で参考にしていきたいです。

## CT装置更新のお知らせ

当院は令和5年10月に新しいCT装置であるRevolution Maxima(GEヘルスケア・ジャパン社製64列CT)に更新しました。

この装置の特徴は、Deep Learningを用いることで、患者一人一人に最適化された再現性の高いポジショニングを行うことができます。

また、最新のフルデジタル検出器や逐次近似画像再構成法「ASiR-V」を搭載し、画像ノイズの低減と分解能の向上によって、低被ばくでありながら高画質である画像の提供が可能となっています。

放射線科技師一同、新しくなった装置の機能を最大限に活用し、患者さんに安全に安心して検査をお受けいただき、診断に役立つ検査に鋭意努めて参りますので、よろしくお願いいたします。



# 【令和5年度 筋ジストロフィー研修会 が開催されました】

内科医長 柏木 節子

令和5年10月6日金曜日、令和元年度の開催以来、久し振りに「筋ジストロフィー研修会」が開催されました。

平成23年度、27年度、平成30年度に続いて4回目の戸田達史先生の御講演に約70人がデイケア棟に集まりました。

今回は、久しぶりということと4回目の戸田先生の御講演ということもあり、戸田先生との再会を楽しみにしておられる患者さんも来場され、御講演の後には患者さんや患者さんの御家族に戸田先生が囲まれて、和やかに歓談される場面もありました。

戸田先生からは「治る脳神経内科」という時代の訪れを教えて戴き、今や筋ジストロフィーという疾患も治療方法が開発されているという事をお示し戴きました。

また、自分の病気が筋ジストロフィーであっても、決して治療を諦めることなく、最新治療を受けるためにも、検査を受けて正確な診断を受けるという大切さも改めて気付かされました。

多くの研究者の方々の日々の努力が集まり続ければ、やがて道が開け「一日も早く」という言葉通りに誰もが治療を受けられる日が近づいているという事を感じさせてくれる研修会でした。



## 【プログラム】

午後13時00分～13時05分 開会の御挨拶  
徳島病院 院長 近藤 秀治

午後13時05分～13時50分 講演  
演題:「筋ジストロフィーの最新治療  
—基礎から治療まで—」

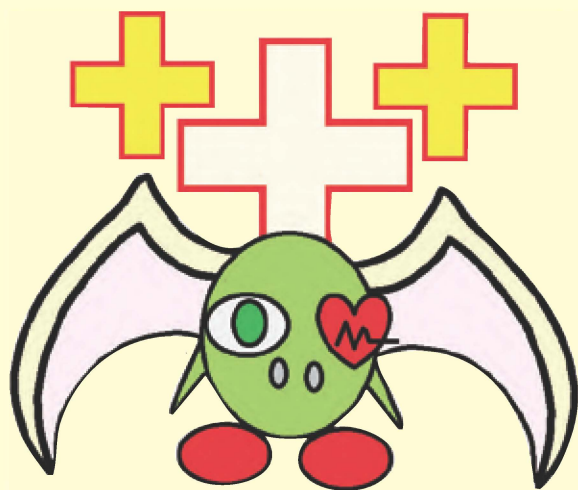
演者:東京大学大学院医学系研究科  
脳神経内科学講座教授  
戸田 達史 先生

午後13時50分～14時10分 質疑応答

午後14時10分～14時15分 閉会の御挨拶

# 療養介護病棟の新キャラクター(非公認)ができました!!

主任児童指導員 和田 勇貴



療養介護病棟の新キャラクターを1階病棟に入院中の新田隆宜さんが考え、作成してくれました。

名前はアストくん!

それぞれ人が持っているパワーから生まれたキャラクターです。

肉体的にも精神的にも元気をくれる力をもっているそうです。

これから、アストくんをよろしくお願いします。

## 第9回『障がい者アーティストの卵発掘展』 第29回『障がい者芸術祭エネルギー2023』 に参加しました!

主任児童指導員 和田 勇貴

9月6日～9月10日に「障がい者アーティストの卵発掘展」、10月3日～10月8日に「徳島障がい者芸術祭エネルギー2023」に療養介護病棟の患者さんが作品を出展しました。

毎年、作品展を楽しみに作品作りに励んでおられ、21名(アーティストの卵発掘展に5名、芸術祭エネルギー展に16名)の方が参加しました。

今回、エネルギー展では、徳島県内の作品が350点あるなか、すみれ病棟の〇〇〇さんがエネルギー賞を受賞されました。受賞を記念して、当院で表彰式と作品のお披露目会を行いました。ご本人も照れながらも喜んでおられ、きっと次の作品への活力になったのではないかと思います。

出展した作品は、売店近くの廊下に飾ってありますので、病院へお立ち寄りの際はご鑑賞ください。今後も皆さんが楽しく作品作りに励めるようにサポートしていきたいと思っております。



患者さんが エナジ 一賞を受賞

# ソーシャルワーク実習(徳島文理大学)

徳島文理大学 保健福祉学部人間福祉学科3年 学生



私は2023年8月から1ヶ月間、国立病院機構徳島病院にて実習でお世話になりました。実習指導者の方を始めとする地域医療連携室の皆様方の温かい雰囲気の中、様々なことを体験させていただき、非常に充実した毎日を過ごすことができました。

今回の実習において特に印象に残っているのは、ソーシャルワーカーが担当する患者さんやその家族の面談に同席させていただいた場面です。面談の準備は環境設定から始まり、患者さんのカルテ確認や専門職種での情報共有など多岐に渡り、実践の場面では患者さんのありのままを受け入れる受容や傾聴といった面接技法について学ばせていただきました。

徳島病院の実習を通して、専門職として患者さんやその家族の権利擁護を行っていくことの難しさや大切さを身を持って感じました。いつか私も指導者の方のように患者さんに寄り添えるような医療ソーシャルワーカーになりたいと思います。

## 気管切開・人工呼吸器の人を支援しています ～富士山のパズルに挑戦中!～

保育士 藤田 瑞稀

気管切開をされ、人工呼吸器を装着されている患者さんも、車椅子に乗車して、様々な活動を離床して行えるように今後も他職種との検討や連携をしながら支援していきたいと考えています。

〇〇さんは、人工呼吸器搭載の電動車椅子に乗車して、デイケア棟のれんげ工房(手工芸室)にてパズルなどの趣味活動を行っています。今は、富士山のパズルに挑戦中!〇〇さんはこれまでは、週二回程度リハビリで車椅子乗車されていました。それ以外はベッド上でゲームをしたり、テレビを視聴したりして過ごされていました。本人の車椅子乗車希望や手を使う活動の希望もあり、長期療養生活を少しでもよいものとなるよう、リハビリも兼ね、車椅子乗車時間の拡張のために他職種カンファレンスを行い、れんげ工房での趣味活動の実施が実現しました。離床して工房に来られることで、他の患者さんや職員と会話をするなど、交流機会も増加したように感じています。



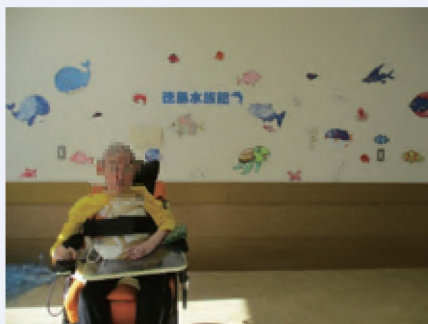
# 「徳島水族館」を作りました



保育士 中 若奈



ボールペンやクレオロール、色鉛筆といった用具を使ってさまざまな種類や模様の海の仲間たちを色づけ、鮮やかで気分も楽しくさせてくれる愛着のある作品たちが「徳島水族館」として夏から秋の間、お披露目されました！



「徳島水族館」製作の発端となったのは、普段から絵画や塗り絵を楽しんでおられる患者さんとの「せっかくなら魚をいっぱい仕上げて『水族館』みたいにするのも良いですね〜。」という何気ない会話でした。「やってみよう」と思っていたいただいたようで、とても意欲的にご参加くださいました。中心となり、次々に色とりどりの海の仲間を塗ってきてくださったのは療養介護病棟(すみれ病棟)に入院されている〇〇〇さん。「僕は塗ったけん、あとは先生に任せる(好きにしたら良い。)」と、完成するたびにご自身で届けに来てくださいました。その他、同病棟の患者さんがご協力くださり、海の仲間がどんどん増えてステキな手作り水族館がデイケア棟を飾ってくれました！今後も新たな作品にチャレンジし、みなさんと楽しく活動しながら過ごしていきたいと思えます。

## ★Zombi Halloween parade2023を実施しました★

児童指導員 井内 香住



令和5年10月31日ハロウィン当日に「zombie Halloween parade2023」を実施しました。

今年度のハロウィンのイベントには、医局、事務部、看護部、薬剤部、地域連携室から計10名の職員の方々が駆けつけてくださり、療育指導室の職員と一緒にハロウィンのイベントを盛り上げてくださいました。

今年のハロウィンのテーマは“ちょっぴり怖いゾンビ”ということで、赤く染色した白衣を着用し、ベッドサイド巡回を行いました。仮装アイテムを着用した利用者さんと一緒に記念撮影を楽しみました。



# 外来診療案内

令和6年3月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	
内科	木村	齋藤	柏木	倉橋	足立	
消化器内科	木村		柏木			
脳神経内科一診	武内	三ツ井	高原	三ツ井	谷口	
脳神経内科二診					堤	
外科					大畑	
整形外科			※1			
リハビリテーション科			高田※1			
放射線科	岡田					
外来リハビリテーション	高田	高田	高田※1	高田	高田	
専門外来	スポーツ整形外来 (午後)	岩瀬(毅)※2		岩瀬(毅)・岩瀬(穰) (予約のみ)※3		
専門外来・予約制	糖尿病外来			倉橋 (午前)		
	筋ジストロフィー外来(小児科)	近藤・宮崎・渡邊		近藤・宮崎・渡邊		
	筋ジストロフィー外来(成人)				担当医師	
	パーキンソン病専門外来	武内	三ツ井	高原	三ツ井	谷口・堤
	物忘れ外来	武内	三ツ井	高原	三ツ井	谷口・堤
	禁煙外来					足立
	セカンドオピニオン外来 (脳神経内科)	脳神経内科医師				

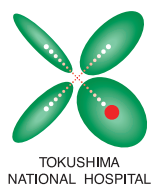
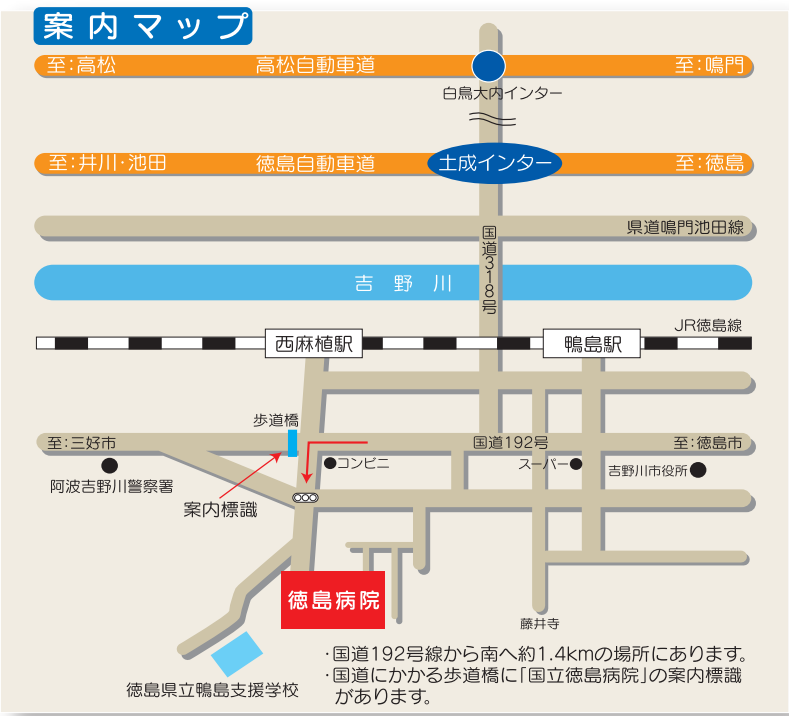
※1 整形外科を受診希望の場合は、リハビリテーション科(水曜日)を受診してください。外来リハビリテーション水曜日午前以外の診察日は総合リハセンターでの診察となります。  
 ※2 スポーツ整形外来(火曜日):初診の場合は予約制(電話予約のみ)です。再診の場合は受付順(受付時間は午後0時30分から4時30分まで)となります。  
 ※3 スポーツ整形外来(木曜日):初診・再診とも予約制となります。初診は電話予約された患者様、再診は医師からの指示のあった患者様の診察となります。

## お知らせ (注意事項)

- ①受付時間は午前8時30分から午前11時までです。(受付時間以外の診療はお電話でご相談ください。)
- ②整形外科(水曜日)の受付は原則午前10時までです。
- ③外来リハビリテーションは再診のみです。初診の方はまずリハビリテーション科(水曜日)を受診してください。
- ④スポーツ整形外来は毎週火・木曜日の午後の診察になります。受診については上記※2(火曜日)、※3(木曜日)をご確認ください。
- ⑤筋ジストロフィー外来は予約制です。
- ⑥セカンドピニオン外来は主として脳神経内科の相談になります。(予約制)

## 交通案内

- JR鴨島駅からタクシーで約7分
- 徳島自動車道「土成インター」から自家用車で約15分



独立行政法人国立病院機構  
**徳島病院**  
 四国神経筋センター

〒776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地1354  
 TEL 0883-24-2161(代表) FAX 0883-24-8661  
 ホームページアドレス <https://tokushima.hosp.go.jp/>

発行年月 令和6年3月